

〈実践報告〉

人文学部教職課程運営委員会 4年間の取組成果と今後の課題

教職課程運営委員会

〔土井 進・田中洋平・鈴木織恵〕
〔中三川和子・樋口聖子・金子 保〕

要 約

本稿は、人文学部が完成年度を迎えた今年（平成29）度に、これまでの4年間の教職課程運営委員会の取組成果を明らかにし、今後の課題を明確にすることによって、学生の資質能力の一層の向上を図ることを目的としている。第1に本委員会の使命について述べ、第2に「師道塾」における実践的指導力の基礎の錬磨について考察した。（この項は、別稿において「論文」として投稿した。）第3に教育実習の参観指導について述べ、第4に「教職実践演習」による学生の質保証への取組とWEB入力上の諸問題を明らかにし、最後に、本委員会が着実な歩みを展開してきたことを示す資料として、平成27年度と平成29年度の「自己点検中間振り返り票」を事例として取り上げ、比較考察しながら、本委員会が達成できなかった事業を今後の課題として明らかにした。

キーワード

教職課程運営委員会 教育実習 中等教育実習事前事後指導 教職実践演習 師道塾

1. 人文学部教職課程運営委員会の発足と使命

4年前の平成26（2014）年度に人文学部が発足すると同時に、教職課程運営委員会が発足し、教員4名、職員2名の体制でスタートした。歴史学科で学んだ学生が、その専門性を生かして活躍できる職場の一つとして、中学校社会科と高等学校地理歴史科の教員免許状を取得させることは、学生の進路選択の幅を広げる上で、重要な仕事であることをしっかりと確認しあった。本委員会には、次の3つの使命が課せられている。すなわち、①教員採用試験に合格できる学生を輩出すること。②若手教員が教職科目を担当できる力量をつけること。③教職科目のテキストを自作することである。

初めに教職科目のテキストは、写真1.のように3冊発行し、学生の教科書として配布した。

1冊目は、土井進・鈴木織恵・田中洋平著『踏み出そう！ 教職への第一歩 中等教育実習事前事後

平成29年9月29日受付 平成29年12月12日受理

どい すずむ：淑徳大学 人文学部 教授

すずき おりえ：淑徳大学 人文学部 准教授

ひぐち せいこ：淑徳大学 東京キャンパス学生支援部 職員

たなか ようへい：淑徳大学 人文学部 助教

なかみがわ かずこ：淑徳大学 東京キャンパス学生支援部 職員

かねこ たもつ：淑徳大学 人文学部 教授

指導—中学校社会科・高等学校地理歴史科—
全143頁、2016(平成28)年12月、淑徳大学
人文学部教職課程運営委員会である。教育実習の
役に立つように、社会科(地理・歴史・公民)、
道徳、特別活動、そして総合的な学習の時間の指
導案と実践事例を豊富に紹介した。

2冊目は、土井進著『踏み出そう！ 教職への
第一歩 教職概論・教育学概論Introduction to the
Teaching Profession・Introduction to Education』
全256頁、2017(平成29)年2月、淑徳大学人
文学部である。そして3冊目は、全国の中等教育
の教員養成課程を念願に、中学校社会科・高等学
校地理歴史科の内容を削除して、全教科に対応できる内容に書き改めた。土井進著『テキスト中等教育
実習「事前・事後指導」—教育実習で成長するために—』全160頁、2017(平成29)年5月、ジダ
イ社である。

このようなテキストの作成を3名の教員が協同で行うとともに、「教育実習事前事後指導」「教職実践
演習」のシラバスも3名で作成し、授業も3名の協同で行った。こうすることによって、若手教員の力
量形成が着実に推進されていると考える。教員採用試験に合格し教職に就くことができる学生を輩出す
るための取組である「師道塾」の実践については、別稿において論ずることとする。(土井)

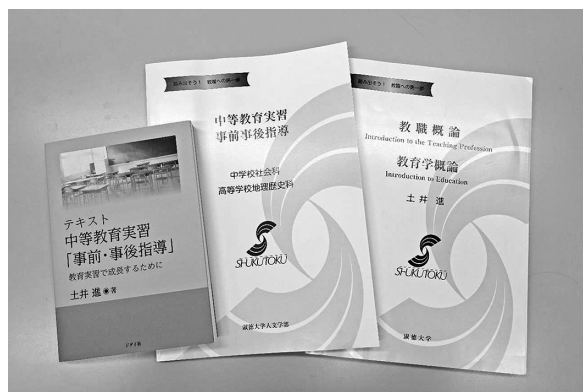


写真1. 作成した『中等教育実習事前事後指導』
『教職概論』のテキスト

2. 教育実習参観指導に見る学生の成長と課題

鈴木織恵・金子 保・土井 進・中三川和子

(1) 教育実習校の決定過程と母校における教育実習の諸問題

教育実習の受け入れ校の開拓については、平成26(2014)年度入学生は、2回の機会を設けた。①母
校訪問と、②教育実習の事前申し込みである。教育実習生を受け入れる中学校や高等学校は、所在地
である自治体において、申込期間や、申込み方法が異なるため、事前に卒業した中学校や高等学校を訪
問することで、実習準備と、教育実習の事前申し込みについて確認させ、受講生に4年次までのスケジ
ュールを自覚させた。

① 母校訪問のオリエンテーションは、平成27(2015)年1月21日に実施した。1年次後期授業終了
後の春休みの期間中に、母校を訪問して、お世話になった先生方に、大学生活で学んだことを報告し、
教員免許の取得を目指していることを伝え、教育実習の心構えをインタビューしてくる課題を出し
た。「母校訪問について」のプリントを配布し、母校訪問の目的、訪問のためのアポイントメント、
教育実習のための準備、母校の先生方が授業で心がけていることの要点を確認させ、実際に母校を
訪問させた。また、教員にインタビューすることで、生徒として当時感じていたこと、教員として
の教育的配慮などを複眼的に考察することで、理想的な教師像について考え、教育現場で行って
はならないこと・言うてはならないことなどを、自分の力で判断する能力を醸成することを意識させた。

特に、教員インタビューで、実習中の授業準備は、多くの時間を要するものであること、生徒と
の信頼関係が重要であること等を、実習前に確認することで、2年次3年次の自主学習の時間確保

の重要性を自覚させ、教職サークルである「師道塾」への参加と熱心な取り組みを促した。

配布したプリントに、訪問した母校の所在地や、教育実習の申込期間などを記入させて提出させた。

- ② 教育実習の事前申し込みのオリエンテーションは、平成27(2015)年10月14日に実施した。「教育実習の事前申し込みについて」のプリントを配布し、教育実習の受け入れ校の実習期間について確認させ、面接、書式など、具体的な実習の申請について必要な書類を調べるように課題を出した。
- あらかじめ①の母校訪問で収集した情報をもとに、教職課程運営委員会で、実習先となる自治体の教育実習の申し込み期間や、申込み方法を確認し、実習先への内諾についてのスケジュール調整を行い、②で収集した情報をもとに、学生個人個人の実習先となる高等学校卒業時までの出身校を確認し、受け入れ校における申請までのスケジュールを確認した。

このうち、東京都教育委員会は、大学と公立学校の間に入って受け入れの調整を行っており、学生個人の申請による教育実習の受け入れや紹介等は行っていないため、東京都下の公立学校での実習を希望する、高等学校卒業時まで東京都内在住者は、本学を通じて東京都教育委員会に教育実習の申請を行った。

その他の自治体の公立学校や私立学校については、実習先となる受け入れ校と、実習生の調整を本学が直接申請を行い、内諾を取り交わした。教育実習の内諾は、3年次である平成28(2016)年4月に実施したオリエンテーションで、各校に「教育実習内諾のお願い」等の書類を持参するように指導し、各校と教育実習の内諾を取り交わした。

(2) 教育実習参観指導に見る学生の成長と課題

人文学部歴史学科の4年生14名が、平成29年5月から初めての教育実習に臨み、一人一人が教職への第一歩を踏み出そうとしている。この時に当たり、教員が実習校を訪問して学生を激励するとともに、お世話になっている実習校に礼儀をつくし、そこから得られた知見を基に教職課程運営上の諸課題を明らかにし、次年度の改善に資する。

実習校14校の訪問指導による教育実習研究

	実習校	実習期間	訪問教員	訪問日
1	松戸市立中学校	5月8日～5月26日	土井 進	5 / 24 (水)
2	船橋市立中学校	5月23日～6月12日	金子 保	6 / 6 (火)
3	東京都立高校	5月24日～6月13日	宇佐美正利	6 / 8 (木)
4	栃木県立高校	5月29日～6月16日	田中 洋平	6 / 9 (金)
5	東京都立高校	5月29日～6月16日	土井 進	6 / 13 (火)
6	栃木県立高校	5月29日～6月16日	田中 洋平	6 / 9 (金)
7	私立高校(千葉市)	5月29日～6月16日	土井 進	6 / 15 (木)
8	埼玉県立高校	5月29日～6月16日	土井 進	6 / 13 (火)
9	私立高校(千葉市)	6月1日～6月14日	金子 保	6 / 16 (金)
10	私立中学高校(東京都)	6月1日～6月21日	田中 洋平	6 / 16 (金)
11	千葉市立中学校	6月12日～6月30日	金子 保	6 / 27 (火)
12	岩手県立高校	6月12日～6月30日	土井 進	6 / 21 (水)
13	所沢市立中学校	9月1日～9月22日	土井 進	9 / 19 (火)
14	埼玉県立高校	10月30日～11月17日	土井 進	11 / 14 (火)

参観した授業の単元は、次のようであった。

地理的分野「日本の気候の特色」、「世界から見た日本の資源・エネルギーと産業」、「貿易によって結びつく世界」、「日本と世界の気候について考えよう」、歴史的分野「平城京の繁栄」、公民的分野「平等権―共生社会を目指して―」、日本史B「荘園の発展」、「律令制下の民衆の負担」、「地域教材を活用した新田開発」、「大化の改新」、日本史A「明治維新政府の政策」など。

どの授業も熱心な教材研究がなされ、声も大きくはっきりと出ていた。教育実習という大きな試練を通して学生が逞しく成長していることを実感することができた。「師道塾」における模擬授業の修練が着実に成果となって学生の身に付いていることを確信することができた。

今後の課題は、教育実習日誌を速やかに実習校に提出すること、ならびにお世話になった校長先生、教育実習教員、ならびに担当クラスの生徒への心のこもったお礼状を早く出すことを徹底することである。

3. 「教職実践演習」による学生の質保証への取組と WEB 入力上の諸問題

土井 進・樋口聖子

(1) 教員養成の質保証を目指す「教職実践演習」の創設と趣旨・ねらい

2013年度(平成25)に卒業する学生が、4年次の後期に受講する教職科目が「教職実践演習」(2単位)である。これまで「教職に関する科目」の第5欄に置かれていた「総合演習」が廃止され、第6欄に位置していた「教育実習」が第5欄に移り、第6欄に新しく「教職実践演習」が位置づけられた。これは、平成元年度に「教育実習事前事後指導」(1単位)が必修化され、各大学が教育実習生を学校教育現場に送り出す前に、大学の責任において学生の資質能力を伸ばすことになった時と似ている。「教職実践演習」は、「教育実習」をも含めた教職課程全体にわたって、各大学の教職課程が責任をもって学生の質保証を担うという、極めて大きな責務を負った科目である。

文部科学省のホームページによれば、「教職実践演習」の趣旨・ねらいが次のように解説されている。

「教職実践演習」は、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、課程認定大学が自らの養成する教員像や到達目標等に照らして最終的に確認するものであり、いわば全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものである。学生はこの科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待される。このような科目の趣旨を踏まえ、本科目には、教員として求められる以下の4つの事項を含めることが適当である。①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項。また、本科目の企画、立案、実施に当たっては、常に学校現場や教育委員会との緊密な連携・協力に留意することが必要である。

(2) 淑徳大学教職課程(中学校)履修カルテ①<教職関連科目の履修状況>

1. 教職関連科目の履修状況(一覧表の作成者 樋口)

区 分	授業科目名	単位	教員名
(1) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	梅原 基雄
	人間理解講座(健康・習慣・運動)	2	橋本 和秀
	英語Ⅰ(基礎)	1	白土 厚子
	英語Ⅱ(応用)	1	白土 厚子
	情報処理法	1	加藤 徹郎
	情報管理法	1	加藤 徹郎
(2) 教職に関する科目	教職概論	2	土井 進
	教育原理	2	新井 保幸
	教育心理学	2	吉森丹衣子
	発達心理学	2	金子 保
	教育行政学	2	西村 吉弘
	教育課程論	2	根津 朋実
	社会科教育法Ⅰ	4	齋藤 一晴
	社会科教育法Ⅱ	4	齋藤 一晴
	道徳の指導法	2	渡部 治
	特別活動の指導法	2	浜野 兼一
	教育方法論	2	樋口 直宏
	生徒・進路指導の理論と方法	2	花屋 哲郎
	教育相談の理論と方法	2	吉森丹衣子
	中等教育実習事前事後指導	1	土井 進
	中等教育実習Ⅰ	2	土井 進
	中等教育実習Ⅱ	2	土井 進
	教職実践演習(中・高)	2	土井 進
(3) 教科に関する科目	日本史概論	4	宇佐美正利
	東洋史概論	4	三宅 俊彦
	西洋史概論	4	小林 惣八
	日本古代史	2	鈴木 織恵
	日本中世史	2	遠藤ゆり子
	日本近世史	2	田中 洋平
	日本近代史	2	茶谷 誠一
	日本現代史	2	茶谷 誠一
	東洋史Ⅰ(中国)	2	三宅 俊彦
	東洋史Ⅱ(朝鮮)	2	赤羽目匡由
	東洋史Ⅲ(インド)	2	関口 真理
	東洋史Ⅳ(イスラム)	2	四日市康博
	地誌学	2	橋本 直子
	人文地理学	2	橋本 直子
	自然地理学	2	橋本 直子
	法律学概論	2	梅原 基雄
	社会学概論	2	野田 陽子
	宗教学概論	2	武田 道生

2. 教職に関する学外実習・ボランティア経験等の状況

--

淑徳大学教職課程(高等学校)履修カルテ①<教職関連科目の履修状況>(省略)

(3) 淑徳大学教職課程 履修カルテ②〈自己評価シート〉

〈人文学部 歴史学科〉

(1) 必要な資質能力についての自己評価 (一覧表の作成 樋口)

必要な資質能力の指標			
項目	項目	指標	H18答申との対応
学校教育についての理解	教職の意義	教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解していますか。	使命感や責任、教育的愛情
	教育の理念・教育史・思想の理解	教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得していますか。	使命感や責任、教育的愛情
	学校教育の社会的・制度的・経営的理解	学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得していますか。	使命感や責任、教育的愛情
子どもについての理解	心理・発達論的な子ども理解	子ども理解のために必要な心理・発達論的基礎知識を習得していますか。	生徒理解や学級経営
	学習集団の形成	学習集団形成に必要な基礎理論・知識を習得していますか。	生徒理解や学級経営
	子どもの状況に応じた対応	いじめ、不登校、特別支援教育などについて、個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法を理解していますか。	生徒理解や学級経営
他者との協力	他者意見の受容	他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができますか。	社会性や対人関係能力
	保護者・地域との連携協力	保護者や地域との連携・協力の重要性を理解していますか。	社会性や対人関係能力
	共同授業実施	他者と共同して授業を企画・運営・展開することができますか。	社会性や対人関係能力
	他者との連携・協力	集団において、他者と協力して課題に取り組むことができますか。	社会性や対人関係能力
	役割遂行	集団において、率先して自ら役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなすことができますか。	社会性や対人関係能力
コミュニケーション	発達段階に対応したコミュニケーション	子どもたちの発達段階を考慮して、適切に接することができますか。	社会性や対人関係能力
	子どもに対する態度	気軽に子どもと顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、親しみを持った態度で接することができますか。	生徒理解や学級経営
	公平・受容的態度	子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができますか。	生徒理解や学級経営
	社会人としての基本	挨拶、言葉遣い、服装、他人への接し方など、社会人としての基本的な事項が身についていますか。	社会性や対人関係能力
教科・教育課程に関する基礎知識・技能	社会科	これまで履修した社会科教育分野の科目の内容について理解していますか。	教科の指導力
	教科書・学習指導要領	教科書や中学校学習指導要領(社会編)の内容を理解していますか。	教科の指導力
	教育課程の構成に関する基礎理論・知識	教育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得していますか。	教科の指導力
	道徳教育・特別活動	道徳教育・特別活動の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得していますか。	教科の指導力
	総合的な学習の時間	「総合的な学習の時間」の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得していますか。	教科の指導力
	情報機器の活用	情報教育機器の活用に係る基礎理論・知識を習得していますか。	教科の指導力
	学習指導法	学習指導法に係る基礎理論・知識を習得していますか。	教科の指導力

必要な資質能力の指標			
項目	項目	指標	H18答申との対応
教育実践	教材分析能力	教材を分析することができますか。	教科の指導力
	授業構想力	教材研究を生かした社会科の授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案としてまとめることができますか。	教科の指導力
	教材開発力	教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を開発・作成することができますか。	教科の指導力
	授業展開力	子どもの反応を生かし、皆で協力しながら授業を展開することができますか。	教科の指導力
	表現技術	板書や発問、的確な話し方など授業を行う上での基本的な表現の技術を身に付けていますか。	教科の指導力
	学級経営力	学級経営案を作成することができますか。	生徒理解や学級経営
課題探求	課題認識と探求心	自己の課題を認識し、その解決にむけて、学び続ける姿勢を持っていますか。	生徒理解や学級経営
	教育時事問題	いじめ、不登校、特別支援教育などの学校教育に関する新たな課題に関心を持ち、自分なりに意見をもつことができますか。	使命感や責任感、教育的愛情

(2) 教職をめざす上で課題と考えている事項

--

(4) 「教職実践演習」の学習記録〈履修カルテ〉①②のWEB入力上の諸問題

○ 教務の立場から

意義：学習記録（履修カルテ）は、教員免許状の取得に必要な科目の単位修得状況及び、学習を記録するものである。この記録により、学生自身の達成状況の把握や、4年間を通して各教員による系統的な指導をおこなうことができる。

方法：各年度の最後に、S-Navi上でWEB入力をおこない、担当教員がコメントを入力する。4年間ですべての項目の記録が入力完了となる。（添付マニュアル参照）

問題点：添付のマニュアルの内容をしっかりと確認せず、入力内容が不十分な学生が多く、また、注意、指導をおこなっても期限内に入力が完了しない学生も多いのが現状である。

今後に向けて：いかに学生が期限内にきちんとした入力ができるか、その為の指導をどのようにおこなっていくかが課題となっている。編集室等で時間を設け一斉に入力をさせる方法や、冊子等にまとめ提出させる方法等、検討が必要と思われる。（樋口）

○ 入力内容の指導について：学生は毎年、年度末に「必要な資質能力の自己評価」を5段階で記入しながら、1年ごとの自己の資質能力の伸長具合を確認していくことになる。ここで毎年問題になるのは、1年次の学生がほとんどの項目に安易に「5」の評価をしてしまうことである。自己をきちんと見つめ、まだ履修していない授業科目の内容は率直に「1」をつけることができる勇気を持ってもらいたいと思う。1年次の「教職実践演習」の記入説明において、このことの徹底を図ることが重要である。（土井）

4. 平成27年度と平成29年度の教職課程運営委員会の「自己点検中間振り返り票」の比較考察

平成27年度 教育・委員会等活動 自己点検中間振り返り票 平成27年9月30日

評価する内容(目標)	中間時点での目標の達成状況	後期に向けた改善点
前学期末、後学期末に単位履修状況を把握し、学生の個別指導を行う。	当委員会としては、教職課程を履修している学生の平成27年度前学期の単位修得状況は、まだ把握できていない。2年生21名、1年生39名の把握に努めたい。	単位修得状況を把握する。 科目履修状況を把握する。
「教職実践演習」に求められる4年間の学習履歴のWeb入力が行われているかを確認する。	学生21名、教員7名ともに100%入力済。	後学期末に2年生と1年生のWeb入力を指導し、進捗状況を確認する。
板橋区の「学習支援ボランティア」に申請した学生数を把握し、個別指導を行う。	残念ながら2年生、1年生ともに申請者は、0であった。 東京都立大山高等学校から依頼のあった「ボランティア教員」には、2年生2名が応募し、9月4日から勤務している。 前野小学校の学習補助に1・2年7名が参加。	後期からの「学習支援ボランティア」の申し込みは可能であるかを、板橋区教育委員会に問い合わせる。板橋区内の中学校に教育実習の受入れを依頼するために重要である。
平成28年度は、22名の「介護等体験」の受け入れ先を確保する。 東京都教育委員会への「体験希望人数」の提出は、平成28年4月上旬。 東京都社会福祉協議会への「受け入れ希望名簿の提出」は平成28年5月上旬。 「師道塾」において年3回の模擬試験を実施し、学習意欲の向上につなげていく。 目標値：1年次0～10%、2年次10～30%、3年次30～60%、4年次60%以上	10月8日(木)16:30から5-6室において、「介護等体験」の説明会を開催する。 司会、遠藤ゆり子 趣旨説明、土井 進、申込み書類の作成について、久保田勝巳、特別養護老人ホームでの実習紹介、全体の補充説明、金子 保 4月以来「師道塾」の開催は60回を重ね、東京都の教職教養の過去問に取り組んだ。現在、『教職教養ランナー』を教材として1回目の学習に取り組んでいる。 現段階での模擬試験の成果は、10～15%である。	10月8日に「介護等体験」説明会を開催し申請者数を確定する。 火・水の8:00～8:50 木の16:30～18:00に「師道塾」を開催し、専門教養・教職教養の研鑽に真剣に取り組む。

平成29年度 教育・委員会等活動 自己点検中間振り返り票 平成29年9月30日

評価する内容(目標)	中間時点での目標の達成状況	後期に向けた改善点
教職課程履修学生は、4年生16名、3年生26名、2年生24名、1年生21名である。「教職実践演習」に求められる4年間の学修履歴がきちんとWeb入力され、教員からのコメントが適切に記入されているかを確認する。	3月の締切日を守れなかった学生があったため、教員のコメントの記入が完了したのは、5月連休明けであった。4年生で教育実習辞退者1名、教育実習後に教職課程履修辞退者が1名出た。 2年生で教職課程履修辞退者が1名出た。	「教職実践演習」の目的である学生の資質能力の向上を実現するために、この科目の趣旨を学生に徹底する。 教職辞退学生のキャリアデザインの指導をする。
板橋区の「学習支援ボランティア」に20名、大山高校の「ボランティア教員」に2名、「農業体験ボランティア」に10以上の学生参加を促す。	板橋区「学習ボランティア」参加者12名、「前野小学校」ボランティア(水泳4名、学習4名)、計20名。100%で地域連携が進展してきた。大山高校「ボランティア教員」1名、50% 「農業体験ボランティア」10名、100%	目標がほぼ実現されている。
平成29年度に3年生24名が「介護等体験」を実施する。全員無事、有意義な体験となるように学生指導に当たる。	介護等体験終了後に提出しなければならない書類(日誌・証明書・自己評価表)の提出日を守れない学生が5名いる。	説明会への無断欠席、提出書類の期限遅れなど、教職課程を履修する自覚に欠ける学生に個別指導をする。
東京都教育委員会への「介護等体験希望人数」の提出を、平成29年4月に終えた。 東京都社会福祉協議会への「受け入れ希望名簿の提出」は平成29年5月上旬に行う。	「体験希望人数」を24名で申請した。 「受け入れ希望名簿」を24名で申請した。	特に問題はない。

評価する内容(目標)	中間時点での目標の達成状況	後期に向けた改善点
教職サークル「師道塾」における勉強会を週3回実施し、模擬試験成績の目標値を1年生10%、2年生30%、3年生60%、4年生80%以上をめざす。	4月～7月、火曜日(3・4限)に「師道塾」を開講して、模擬授業をする力を付けた。また、火・木の8:00～8:50の「師道塾」では、教員採用試験の過去問に取り組んだ。4年生は60%まで伸びてきたが、あと一步目標に到達していない。	4年生4名が、公立学校教員採用試験に全力で取り組んだが、あと一步力及ばず、1次試験で不合格となった。諦めないでさらなる努力をするよう促していく。

平成27年度と平成29年度を比較すると、学習ボランティアに参加する学生が増加してきていることが分かる。これは板橋区教育委員会と淑徳大学ボランティアセンターのご尽力によるもので感謝したいと思う。これから学校インターンシップが重要になってくるので、この流れを継続していきたいものである。

5. 今後の課題

平成30年度からは、「教職課程コアカリキュラム」に示された「到達目標」が、学生の身に付くように指導の改善充実を図ることが第一の課題である。そのためにシラバスチェックが丁寧に行えるように、非常勤講師の教員との意思疎通を図ることに努めたいと思う。

第二の課題は、これからの教員養成は大学の中だけで完結するものではなく、近隣の学校や身近な教育委員会との連携を図ることが極めて重要である。この観点から板橋区教育委員会の理解と協力を得て、学校ボランティアにこれまで以上に学生を派遣するとともに、学校インターンシップへの道も模索していきたいと思う。第三の課題は、最も近くて最も遠い存在であった淑徳中学校・淑徳高等学校との連携協力関係の構築に向けて、率直な話し合いを開始することである。これらが今後の課題であると考えている。